

「共生の森」の植物 平成21年4月26日

ヒトツバタゴ (モクセイ科)



ヒトツバタゴの花 →

東南アジアに分布し日本では対馬などに自生。対馬では天然記念物に指定。街路樹としては「なんじゃもんじゃ」の名でおっている。大阪では肥後橋の四ツ橋沿いでみたことがある。



石津川の駅前の街路樹、ヒトツバタゴが満開。例年ゴールデンウィークを避けて活動していたので花をみたのは初めて。



平成 21 年 2 月 植 栽 地

これまで何回もかよったが、防波堤の越波にあったのは初めて。風が強かった。



サークル植栽の場所

植栽時から、マルチングの薄さは気になったが、4月地点では草の



生え方に差がでている。7月にがっかりすることになると思うが、初期の光の争奪競争段階ではマルチング効果を発揮。



クズも生き残り作戦始。今年の草刈りはこいつがひとつの焦点になりそう。

通常植えのところ



現在のところは草がまばら。周辺とくらべてどのように草におおわれていくかよく観察。



風が強い。1 m 程度の苗木も支柱なしで植えている。どんな木に育つか。



(写真はマサキ) クスも新葉が出ていた。植栽地の活着状況は概ね良好

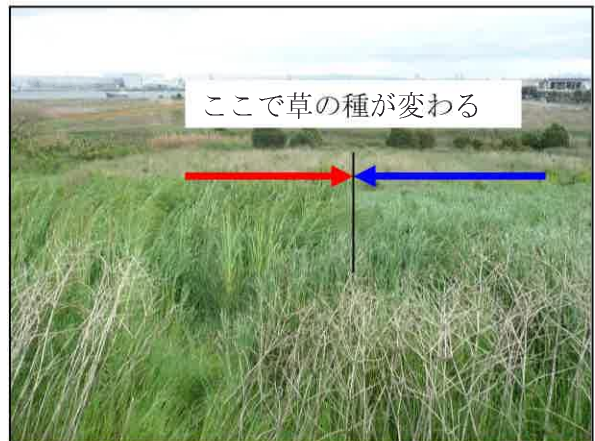
平成 20 年度以前の植栽地



20 年 2 月 植 栽 地

4 月の時点で草にやられている。7 月には下刈りが必要。この場所は

植栽前にはアルファルファーに覆われていた。植栽地の上部は現在では 2 種のイネ科植物に覆われている



ここで草の種が変わる

カラスムギとネズミムギに覆われるアルファルファーはどこにいったのか。

平成20年2月植栽箇所（海側）



手前半分は昨年草刈りをした場所。奥は草刈りをしていない箇所。草刈りをしていない場所は、今年、草刈りしないと、もたない気がする。



ウバメガシ
新葉が展開し
ジミながら花が咲いていた。



18年2月植栽地の上部よりシャープ新工場を望む。この工場が見えなくなる日はいつくるか。



平成18年3月植栽地
もうマツは大丈夫。
大きなもので現在高さ
2m越え。今年も1mは順調に大きくなりそう。
マツの植え方にもう少し工夫が必要か。

はじまりの森



去年、草刈りした場所。
すっかり草に覆われているが、ところどころに広葉樹の新葉が見える。

宮脇方式（手入れ不要）の箇所ではあるがマルチングも薄かったのであと2年、なんとか草刈りやりましょう。



クス・ヤマモモ・タブ 新葉が展開



北側の草刈りした場所。
なにがなんやら。



海側の草刈りをしなかった箇所。シナガワハギの枯れたやつが風に倒された、植栽苗も巻き込まれて倒れている。そんな中にも、よく見ると新葉が出ていた。

ヤマモミジ

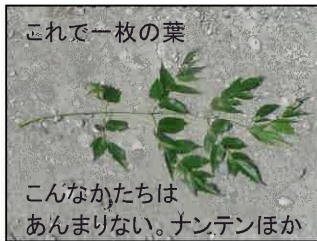


「共生の森」の植物 平成21年5月30日

センダン(センダン科)



現在の共生の森を代表する木のひとつ。共生の森では種が野鳥に運ばれて生えたものと推測される。



これで一枚の葉

こんなかたちは
あんまりない。ナンテンほか

一度、葉の形を覚えてしまえば公園や街の中で目にするようになる。大阪市内では中ノ島中央公会堂横の土佐堀

川に梅檀木橋(せんだんのきばし)がかかる。江戸時代に橋のたもとにセンダンの木が生えていたとされる。現在でも橋の南詰に大きなセンダンの木が生えている。

サークル植栽



周辺の草丈は伸びていたが、マルチングは、まだ効果を発揮していた。



ただし、ほふく性のクズは容赦なく進入していた。

通常植栽の箇所(同じく今年2月植栽)



同じく草に覆われてきているが、マルチングの効果はまだ持続していた。

今日の共生の森



見通しがよく淡路島の観音象もよく見えた

平成21年2月植栽地

サークル植栽の場所(今年2月植栽)



イネ科の植物が多く、人の腰くらいの高さの草におおわれている。

20年度以前の植栽地

H17-A・B・C(17年3月植栽:4年経過)



植栽時の条件

1m2 当り1本植栽 樹高 50cm

土壌改良あり マルチングなし

木の背たけが2m近くに。木と木の間隔も狭くなり下刈りの優先順位は低い。

下刈り4回で卒業可

植栽密度は高いが植栽方法としては合格

H17-D(17年3月植栽:4年経過)



植栽時の条件

小学生によるドングリのじかまき

ネズミムギが大繁茂。おまけに草が倒れて苗が見えない。ここの下刈りの優先順位は高い。

前例とおなじで4年経過。苗は苗畑で育て、ある程度大きくなってから現地に植えるというのは鉄則。これも実験の成果のひとつ。

雑草の状況

先月イネ科2種類が棲み分けていた場所



手前のネズミムギは風で倒れていた。奥のカラスムギは倒れずに残っている。ネズミムギのそばの苗木は巻き込まれて倒れてしまう。

H19-A~D(19年2月植栽:2年経過)



植栽条件

2m²に1本植栽 樹高 80cm

土壌改良あり マルチあり

今年度も下刈の優先順位は高い



アオモンイトトンボ シオカラトンボ
※ ギンヤンマ、アカトンボの一種もいた



コアオハナムグリ

その他:シロチョウ・キチョウの一種、アオスジアゲハ

H19-E(19年2月植栽:2年経過)



植栽条件

海辺樹種

2m²に1本

下刈りせずには

あったらかし実験

地区

順調に草が伸びている。他と草種は違う

今月の観察結果

- マルチングは5月末時点でまだ効果を発揮
- 1m²に1本の苗木密植箇所は4年で下刈り卒業可(優秀)。共生の森の植栽としては合格
- 種のじかまきは今後ともさける

アカメガシワ(トウダイグサ科)



花



市街地にも

荒地や空き地に最初に生えてくる樹種のひとつ。共生の森にも多く生えており、鳥が種を運んできたものと思われる。山の伐採跡地や、街なかなど、どこでも見かける。名前の由来は新芽が赤いこと

と、カシワのような大きな葉から。

平成21年2月植栽地

(今年2月のサークル植栽箇所)



周辺の草丈は伸びていたが、マルチングがまだ効果を発揮していた。初期の除草方法として合格。

平成19年2月植栽地 (植栽後2年経過)



毎年草刈り実施

「草刈り地区」はセイタカアワダチソウやいろいろな草に覆いつくされてきている。



ほったらかし地区

草刈りをしない「ほったらかし実験区」にはセイタカヨシ?が優勢となっている。

草刈り 平成20年2月植栽地(今回草刈り実施)



草刈り前

先月まで倒れていなかったカラスムギも枯れて倒れている。倒れたあとからアルファルファが出てきている。



草刈り後

あまり変わらないように見えるが植栽木があらわれている。この地区はイネ科の植物が多い。

今月の観察結果

○マルチングは植栽当年度には効果を発揮

○草刈りの実施、未実施により、その後の植生に変化が現れる。

ナンキンハゼに集まるハナムグリ



シロテンハナムグリ アオハナムグリ
蜜や花粉を食べる

シオヤアブと捕まってしまったゾウムシのこども



アレチハナガサを訪れるクマバチ



アメリカオニアザミ、ノラニンジンも大人気！



ドウガネブイブイ
こちらは葉を食べる

ナナホシテントウ

ノラニンジンに集まる アカスジカメムシ

ムシを待ち構える コガネグモ



アカスジカメムシはセリ科の植物に集まる



オニグモ
(裏側)から

キアゲハ 幼虫はセリ科植物を好む



トノサマバツタ 越冬組みか?



モンキチョウ 幼虫はマメ科植物を好む



フタモンアシナガバチ 今年が多そう



ツバメシジミ 幼虫はマメ科植物を好む



ノイバラの虫こぶ(虫えい)



キマダラセセリ 幼虫はイネ科植物を好む

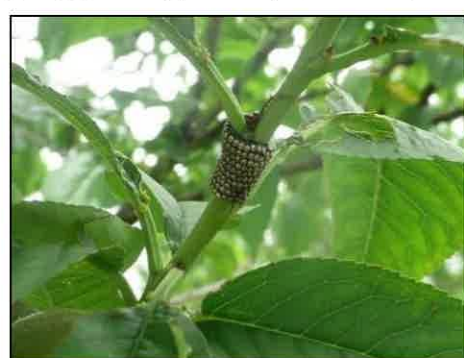


(バラハタマバチのバラハタマフシ)

ベニシジミ 幼虫はタデ科植物を好む



オビカレハの卵 今年の枝についていた(モモ)



「共生の森」の植物 平成21年7月26日

ワシントンヤシ(モドキ)(ヤシ科)



「あの木はなんだ?」「共生の森にこんな植物が生えていていいのか!」誰もが一度は目をそらしたくなる、異国情緒ただよわすこのお方。アメリカ人です。

種が土に混じっていたのではなく、鳥が種をはこんできたものと思われます。ちか場では、石津川からの道沿い、南港WTC、大阪市大などに植えられており、そこからやってきたのでしょうか。注意していると街なかでもときどき見かけます。JR天王寺駅前にあった大きなもの(6本ほどあった)は先日、伐られてしまいました...

今回見かけた動植物



セッカ(鳥)の巣



葉陰で休むドウガネブイブイ



クマゼミ

(以前はJ山では少なかった)



アオスジアゲハ

(幼虫はクス科植物を好む)



ハクチョウソウ(白蝶草)
(北アメリカ原産)



ヘクソカズラ

草刈り 平成21年2月植栽地(今回草刈り実施)



草刈り前



背たけほど伸びている



草刈り後

マルチングの効果が薄れてきていた。セイタカヨシが人の背たけほど伸びていた。クズもなかなか。サークル植えの場所で、サークル

外の草もすべて手で刈っている。草刈り手間を省く為にサークル植えしている意味がない。人力刈りは、機械の入れない通常植えの場所にまわし、サークル外の草は、ほっとくか機械刈りにまかせたほうが良いのでは。

その他の場所



19年2月植栽

クズに覆われてしまっている。クズ以外の場所もけっこう悲惨。草刈り優先度高い。



17年3月直播きエリア

6月にドングリ苗木がネズミムギに押し倒されられていたので草刈りした場所。セイバンモロコシに覆われていた。



はじまりの森

今年1度草刈りされた場所。セイバンモロコシやその他雑草に再び覆われていた。苗木は生長していた。

今月の観察結果ほか

- マルチング効果は7月末には薄れる。
- 6月に下刈りした場所はセイバンモロコシに覆われていた。草の密度は下がっている。
- サークル植栽の場所を全面手刈りするのは意味がない。
- 一般参加者がハチに刺されたが一人で最多5箇所は刺されすぎ。イベント実施箇所の巣は前月の小さなうちに落としてもよいのでは...

クズ (マメ科)



幼虫はクズ (マメ科植物)を好む。共生の森では初めて見た

「共生の森」でいま一番、繁茂している植物。マメ科植物は痩せ地でも育つためどんどん面積を広げている。かつては重宝されたが今では利用価値もなくなつただだ見守るばかり。

クズはこの繁殖力に目をつけられ、緑化に利用する為に戦後、アメリカに持ち込まれた。今ではアメリカで押しもおされぬ外来種としてはびこっている。その名も KUZU。

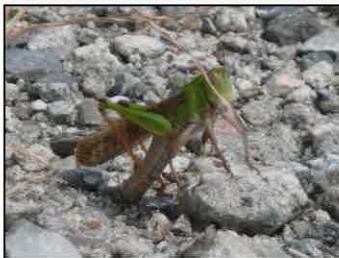
見かけた昆虫



シオカラトンボ



ショウジョウトンボ



トノサマバッタ

立ち上がってメスを探している?



トノサマバッタ産卵

(写真は昨年)



チョウセンカマキリ



コカマキリ

共生の森には3種類のカマキリがいる。あとは オオカマキリ

ショウリョウバッタ 七変化

得意なすみかによって体色や模様がちがうどこにいるか見つけにくい。



全身 みどり色



枯れ枝模様の茶色



茶色の茎まじりの みどり色



こちらは全身 茶色のオス オスはメスよりかなり小さい

草の状況

平成21年2月植栽地(7月草刈り実施)



サークル植えの場所

マルチングはまだ少し効いている。周辺より草丈が低い。クズが迫ってきている



通常植えの場所

草丈は人のひざまでの範囲。来月はどうなっているか。

平成19年2月植栽



これまでに草刈り1度実施(H20)。クズに覆われた場所や、イネ科が優勢なところなど、とにかくえらい事に。

平成19年11月植栽 はじまりの森



今年7月に事業で草刈りを実施。草がまた伸びてきていた。植栽時、50cm程度だった苗木が育ち1mを超えるものも。

ウイキョウ(フェネル) (セリ科)



Q池の南側に群生している。いかにも外来種。最近のデビューかと思いきや、そうではない。原産は地中海沿岸。漢字で茴香。回の部分はイスラムの地を経て中国に渡来したことを示すともいわれる。日本には平安時代に渡来。シルクロードを経てやってきたのか。共生の森にどうやって来たかは不明。胃腸薬などの漢方薬ほか、スパイスなど調味料として使われる。薬用として栽培している地方もある。種子は手で揉むといかにも薬効がありそうなありがたい香りがした。



フタモンアシナガバチ

ツユムシ

植栽地の様子

2ヶ月前(7月)草刈りした場所 (H21 2月植栽)



クズが少し伸びてきている。草丈はそれほど高くない。草刈りをするとうマルチングがまだ効果を発揮している箇所もある。

今回草刈り実施場所 (H19 2月植栽)



クズが西から進入。クズに覆われていた。草を刈ると下に苗木が残っていた。(19-A)

みかけた動植物



ヒガンバナ



パピルス



イネ科の植物に覆われていた。(19-C)



メジロ



オオカマキリ

今月の観察結果ほか

- クズに覆われている場所が目につく(植栽箇所に限らず)
- 2ヶ月前(7月)に下刈りした箇所に再びクズが伸び始めていた。
- 「はじまりの森」海側斜面の苗木の生育が悪い

ヌルデ(ウルシ科)



これが1枚の葉(複葉)



軸に翼があるのが特徴

伐採跡地などに最初に生えてくる植物のひとつ。大きなものはあまり見かけないが府内のどこでも目にする。共生の森では、生育のじゃまをするものがないので伸びのびと育っている。種は鳥が運ぶ。落とされた地面の中で出番が来るまで20年程度、耐えることができ、伐採などで、かく乱されるまで種のまま待っている。ウルシ科の植物で、触るとかぶれることがあるそうだが、ヌルデで、かぶれた人の話をきいたことはない。

みかけた動植物



ジョロウグモ



アカタテハ
成虫で越冬する



ナワシログミの花
コアオハナムグリ



ハナカタバミ

台風18号の影響

10月8日台風18号が和歌山県沖(熊野灘にそって)を通過しました。955hPaと比較的強い台風でした。



根こそぎ倒れたセンダン



傾いた松

倒された木、傾いた木は東南の方向を向いている。このことから北西の風で倒された。

台風の経路から、北西の風が吹いたのは台風中心が尾鷲沖を通過した午前3時ごろ。この時間帯に秒速30m以上の風が吹いたと推測される。このレベルの台風が、紀伊水道を北上し、淡路島を通過していると、多くの木が北向きに倒されていたでしょう。

倒れた木からわかること



樹冠と根のライン

- センダンの根は深く伸びず、浅く横方向に広がり、木を支えていることがわかります。
- 太い根は、樹冠(枝の広がり)の幅程度まで伸びていることがわかります。

植栽地の様子

平成17年植栽箇所



ウバメガシにドングリがなっていた。共生の森での世代更新が期待できるまでに成長

夕チバナモドキ(ピラカンサ)(バラ科)



共生の森で今オレンジ色の実をつけている。鋭いトゲがあること、刈り込みに耐えること、実が見栄えすることから生垣などにも植えられる。街なかでは、切りそろえられているが、共生の森では本来の樹形の暴れた姿となっている。実の時季に枝の先端に一輪の花が咲くのを目にする。ピラカンサの種子は鳥によって散布され、今も共生の森でその分布範囲を広げている。

実や、生え方から「共生の森」には鳥に運ばれ
やって来たのかな?と思われる植物



ナンキンハゼ



アケビ



ノイバラ



ナンテン



フェニックス



ワシントンヤシ

見かけた動植物

昆虫の姿は少なくなってきました。



ナナホシテントウ(左)とナミテントウ(右)
どちらもアブラムシを食べる。成虫で越冬。



エンマコオロギ(メス)



オオカマキリの卵塊



いろいろな色の花をつけるキク科の植物



キョウチクトウ



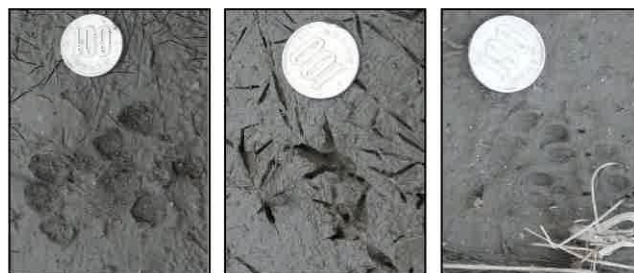
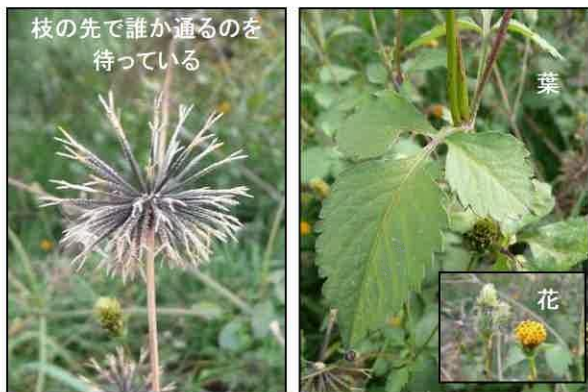
アツバキミガヨラン

キョウチクトウはマルチング材としてもちこまれた枝の切れ端から芽を伸ばしていた。

種子が鳥に運ばれたり、土に混ざっていたり、剪定枝から復活したり、それぞれの植物の「共生の森」への登場方法を考えるのもおもしろそう。

アツバキミガヨランは、春からず〜っと花が咲き続けているような気がする。この植物はどのようにして、ここにやって来たのでしょうか?

コセندگانサ (キク科)



3種類の足跡



スイセン



ノゲシ



オオキンケイギク



セイヨウタンポポ

「くつつきムシ」の代表選手のひとつ。名前の由来は葉がセندان(木)の葉に似ているとのことから。アメリカ大陸原産で、少なくとも明治時代には日本で確認されていたそう。この植物の分布拡大の作戦は動物や人にくっついて移動すること。その戦略が功を奏し、今では世界各地に分布している。

この時季の共生の森では、この植物の術中にはまらずに抜け出すことはまずできない。種子は枝先で逆立ちし、冬の間、落ちることなく、動物や人が通るのを待っている。



トベラ



マサキ

みかけた生き物・植物



大きな石をのけると越冬ぐみが
コオロギの仲間



ゴミムシの仲間



タチバナモドキ (ピラカンサ) トキワサンザシ



ハクセキレイ 飛びながら顔をつけ、水を飲んでいる



カゼは冷たく気温は低い
が、よく見ると、生き物が
いて、花が咲き、実がなり、
案外にぎやか



なぜか
ツツジが